

製品名: DARPP-32 (リン酸化 Thr75) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04539**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R1B
別名	PPP1R1B; DARPP32; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 1B; DARPP-32; Dopamine- and cAMP-regulated neuronal phosphoprotein
遺伝子 ID	84152.0
SwissProt ID	Q9UD71
免疫原	抗血清は、Thr75 のリン酸化部位周辺のヒト DARPP-32 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 41-90

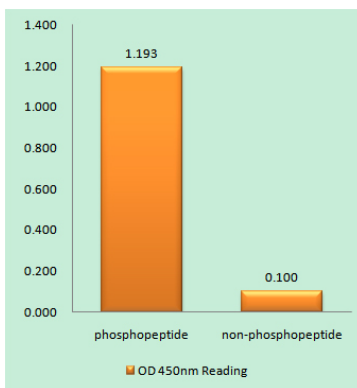
背景

この遺伝子は二機能性シグナル伝達分子をコードしています。ドーパミン受容体およびグルタミン酸受容体の刺激によってリン酸化が制御され、キナーゼまたはホスファターゼ阻害剤として機能します。ドーパミンの標的として、この遺伝子は神経疾患および精神疾患の治療標的となる可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011年10月]機能: タンパク質ホスファターゼ1阻害剤。PTM: ドーパミンおよびサイクリック AMP 調節性神経リン酸化タンパク質。PTM: 活性には Thr-34 のリン酸化が必要。類似性: タンパク質ホスファターゼ阻害剤 1 ファミリーに属する。

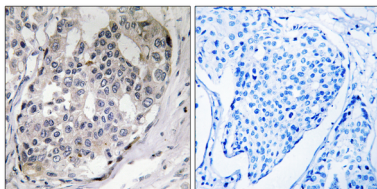
研究分野

神経科学

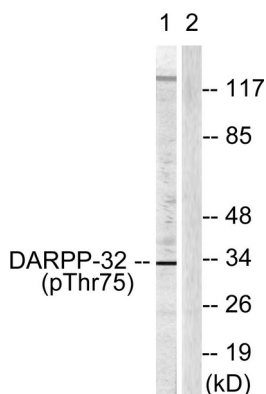
画像データ



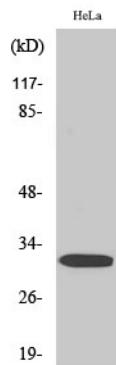
DARPP-32 (リン酸化 Thr75) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



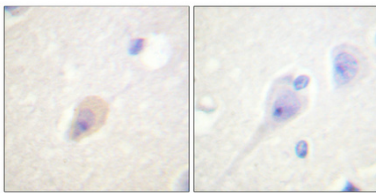
DARPP-32 (リン酸化 Thr75) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



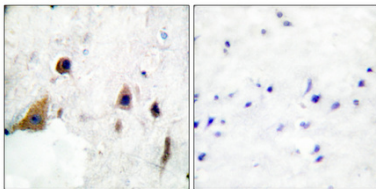
フォルスコリン 40nM 30μL 処理した COS7 細胞ライセートの DARPP-32 (リン酸化 Thr75) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 希釈の Phospho-DARPP-32 (T75) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。